

□カッパ着て雨の日体験

イスラエルの諺に、「**知識は本から、知恵は体験から**」というのがあります。教科書や参考書を見て勉強すればするほど知識は増えますが、思考力や判断力、生きて働く力を身につけるにはそれだけでは足りません。むしろ**体験が大切**です。昔の人は学問はしませんでした。が、**生きるための生活の知恵**はありました。この前、本園のあるクラスでは子どもたちに「雨の日の過ごし方」について話し合いをさせたところ、「カッパを着て雨靴履いて外で遊びたい」となりました。雨の降る日に、同じ計画を立てていたもう一つのクラスと一緒に、全員カッパを着て雨靴を履いて園庭を散策しました。子どもたちは大はしゃぎ。降りしきる雨を受けながら水溜まりに入ったりして水の感触を味わいました。鬼ごっこをしたりして、雨の中を走り回りました。子どもたちは頭でイメージした雨と実際に顔や手足に感じる雨との違いを感じたと思います。雨の時はどのような状態になるか、どのように対応したらよいか考えたことでしょうか。こういうのは、学問ではなかなか身につけません。よい体験をしました。

□好評 保護者の保育参加 6～7月実施

昨年度から始めた保護者の「保育参加」（6～7月実施）は、今のところ下記の通り好評です。

- 大変楽しい。
- 家庭と違う自分の子どもの様子がわかる。
- 同年齢の他の子どもの様子がわかり、大変参考になる。
- **保育園の仕事内容がわかる。**
- 保育士の大変さがよくわかる。

□「情けは人の為ならず(自分の為である)」

「情けは人の為ならず」という言葉があります。「情けをかける、人の為にならない」という意味ではありません。その逆です。**情けをかけることは、その人のためではなく、自分の為になる**ということです。人に情けをかけておれば、いつかはめぐり巡ってよいことがあるとの意味です。情けを受けた者は、自然にそれを有り難く思って、情けをかけてくれた人に好意を持つようになるから、何かの折には報いがあるもの。他人の為に尽くすことは、自分の為に尽くすことです。そうでなくても、困っている人を助けてあげると、「人のお役に立った」という満足感や充実感があります。人生で一番尊く輝いて見えるのは、人のお役に立った瞬間だと思えます。本園の子どもたちが当番を喜んでするのも、「人のお役に立ちたい」という人生の(天が与えた究極の)目的を本能的に知っているからだと思えます。ご家庭でも、思いやりのある子どもが育つような環境作りや教育をしていただく有り難いです。

□お知らせ・お願い

- 駐車場の使い方について
 - ① 送迎駐車場は多くの保護者が利用できるように、**隅の方から詰めてきちんと整理**してくださるようお願い致します。(苦情が届いています)
 - ② **送迎駐車場では、子どもを遊ばせないでください。**とても危険です。
 - ③ **道路には車を駐めないでください。**駐車禁止になっています。
 - ④ プラッセ側から市街地に向かい、のせ菓子より隈之城保育園に登るところは、「**右折禁止**」となっています。面倒ですが、隈之城小学校の方から登っててください。なお、登る時は**スピードを出し過ぎないように十分気をつけて**来てください。
 - ⑤ 正門に設置してある**インターフォン**をいたずらで**子どもに押させないで。**